

地域密着型サービス評価の自己評価票

(部分は外部評価との共通評価項目です)

取り組んでいきたい項目

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営				
1. 理念と共有				
1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	生きがいをもち安心して家庭的な生活をしていただけるように、支援しています。独自の理念もつくりあげています。		理念にあるように、愛あるケアでゆとりとくつろぎの毎日を過ごしていただけるように、これからも支援していきます。
2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	職員の目のつくところに、理念を掲げ、実践できるように取り組んでいる。		理念を毎日見る、読む習慣をつくり、今まで以上に実行できるように努めていきたい。
3	○家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる	趣味教室などの際にはボランティアの方等に来ていただき、一緒に参加していただいている。		今後も地域やボランティアの方と密に関わって行きたいです。
2. 地域との支えあい				
4	○隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている	近くの神社に行ったり、外出時には「こんにちは」と隣近所の方との挨拶をし、日常的な付き合いができています。	○	喫茶店、理髪店、美容院などへゆく機会をふやし、近隣の人との関わりを今まで以上に増やしていきたい。
5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	地域活動会等の参加のお誘いがある時は積極的に参加している。	○	積極的に関わっていきたい。

アイケア服部(3Fげんき組)

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	○事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	スタッフ間のミーティング時話しあっている。	○	ミーティング、スタッフ間の申し送り時に話し合い、役立つことを見つけ、取り組んでいきたい。
3. 理念を実践するための制度の理解と活用				
7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	職員と一緒に評価を実施し、意義を理解し、サービスに生かせるように努めている。		改善しなければならないことがあれば、出来ることから行っ ていきます。
8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	意見などがあれば、後日スタッフに報告し、サービスに生かせるように努めている。		今後も、話し合いで出た意見を、サービス向上に活かして いく。
9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	地域ネットワーク会議、介護保険連絡会議等に出席し、市町村と連携をとり、サービスの向上にとりくんでいる。	○	密に連携をとり、サービスの質の向上に取り組んでいき たい。
10	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	権利擁護の必要な利用者様には活用できるように支援しています。		スタッフ全員が勉強をし、権利擁護制度の理解ができるよ うにしていきたい。
11	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	スタッフ一人ひとりがそのような事がおこらないように注意を払い、防止を行っている。		虐待などがおこらないように注意をし、徹底を図ってい きたい。

アイケア服部(3Fげんき組)

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制			
12	<p>○契約に関する説明と納得</p> <p>契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている</p>	<p>細かな説明、疑問などがあれば、十分な説明をおこない、理解していただけるようにしています。</p>	<p>今後も細かな説明を行うように心がけてゆきます。</p>
13	<p>○運営に関する利用者意見の反映</p> <p>利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>利用者から不満、苦情などがあれば、管理者、スタッフ全員で話し合い、対応するようにしています。</p>	<p>利用者の声を第一に考え、運営に反映させていきたいと思っています。</p>
14	<p>○家族等への報告</p> <p>事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている</p>	<p>家族様が面会に来られた時には、日常の生活を細かく伝え、家族様ともコミュニケーションを取れるようにしています。</p>	<p>毎日の細かい報告は、利用者様の部屋に備え付けている連絡ノートを見ていただければわかるようにしており、口答での報告も忘れずにしています。</p>
15	<p>○運営に関する家族等意見の反映</p> <p>家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>家族様とも面会時に少しでも話す時間をつくり、意見などを聞き、運営に反映させています。</p>	<p>家族様からの苦情などがあれば、管理者に報告し、どのように行っていくか考え、運営に反映させていきます。</p>
16	<p>○運営に関する職員意見の反映</p> <p>運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている</p>	<p>ミーティング、日々の申し送り時に意見、提案できるように行っている。</p>	<p>今後もミーティングなどで話し合い、運営に反映させていきます。</p>
17	<p>○柔軟な対応に向けた勤務調整</p> <p>利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている</p>	<p>必要な時にスタッフが確保されるように、ミーティング時等に話し合い、勤務調整をしている。</p>	<p>柔軟に対応し、勤務調整をしている。</p>
18	<p>○職員の異動等による影響への配慮</p> <p>運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている</p>	<p>他の階のスタッフも入居者と顔を合わすたびに挨拶、会話をおこない、みんなが馴染みある環境をつくっている。</p>	<p>馴染みある環境をスタッフで安心していただけるようにしている。</p>

アイケア服部(3Fげんき組)

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援			
19	<p>○職員を育てる取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>研修に行ったり、月に1回(仕事が終わってから)施設内で勉強会を行っている。</p>	<p>今後も勉強会を続けていきたい。</p>
20	<p>○同業者との交流を通じた向上</p> <p>運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	<p>研修会、勉強会を通して意見交換を行ったり、交流を図っている。</p>	<p>もっとたくさんの同業者の方と関われる時間をつくり、情報交換をどんどん行っていきたい。</p>
21	<p>○職員のストレス軽減に向けた取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる</p>	<p>スタッフ同士どんなことでも話し合い、ストレスをためないようにしている。ミーティング時などで意見を聞いている。</p>	<p>○ 休憩時間はしっかりとってもらっています。</p>
22	<p>○向上心を持って働き続けるための取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている</p>	<p>勉強会を行ったり、スタッフ同士の意見交換等を行い、向上心が持てるようにしている。</p>	<p>○ 勉強会、研修会に行き、スタッフ一人ひとりのレベルアップ、スキルアップをおこなっていきたい。</p>
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援			
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応			
23	<p>○初期に築く本人との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている</p>	<p>ご本人との話の内から聴き取ったり、入所者様同士の会話から聴き取っている。</p>	<p>今後も利用者様との会話に耳を傾け、安心して何でも話していただけるように信頼関係を築いていく。</p>
24	<p>○初期に築く家族との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている</p>	<p>面会に来られた際には話し等を聴いたりしている。</p>	<p>家族会があり、管理者、ケアマネが対応しているが、スタッフも面会時などには話を聞いている。</p>

アイケア服部(3Fげんき組)

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
25	○初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	会話の中からどのような支援を求めておられるのか、行えること、行えないことを見極め、対応している。		生活の中で行なえる事は見守りにて支援している。
26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	ご本人が使用されていたもの、家具などを持ってきていただき、馴染んでいただけるように工夫している。他の入所者とのコミュニケーションも図って頂けるように工夫している。		他の入居者とも慣れて頂くための雰囲気づくりを行っている。興味のあることを行って頂き、共同生活に慣れて頂けるように配慮している。
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援				
27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	その人の立場になり、一緒に楽しんだり、怒ったりし、人生の先輩として、たくさんの中からの、学ばせて頂いている。困っておられることがあれば、話を聞かせてもらう。		今後もそばにいるパートナーとして、より支えあう関係を築いていきます。
28	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	家族様の話をよく聞き笑ったり、悲しんだり、悩んだりできるような関係を作っている。家族様との連絡ノートを居室に置き、伝えたいこと等記入している。		家族様とも些細なことでも連絡しあい、情報の共有を図っていきたい。
29	○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	外出行事がある時には家族に連絡し、一緒に楽しんでいただけるように支援している。		スタッフも家族様も入居者のことを考え、共により関係を築いていけるように支援していきたい。
30	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	家族様、友人と自由に外出、外泊して頂ける様にしている。		馴染みの場所、関係が途切れないように、今後も自由に外出、外泊をしていただけるように支援していきます。
31	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	皆様が、一緒に楽しめる事をする。(カラオケなど)		夜などテレビを退屈そうに見ておられるときに励ます。

アイケア服部(3Fげんき組)

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
32	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	必要な利用者、家族様には、相談事などがあれば、柔軟に対応させてもらっています。		必要とする入居者、家族様とは、継続的に関わりを断ち切らないようにつきあっていく。
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
1. 一人ひとりの把握				
33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ご本人の意思を大切にし、尊重できるように努めている。		ご本人の意志を大切にし、日々暮して頂いています。
34	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時に家族様からの情報をもとに入居情報を作成している。気になる事等はご本人から聞いたり、生活歴等を知るように努めている。		今後もご本人から生活歴などを聞き、今までの暮らしの把握を行って行っていく。
35	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	家族様から情報を得たり、ご本人が出来ること、出来ないこと等スタッフが見極めるようにしている。記録、日常の観察から現状を知るように努めている。		スタッフ一人ひとりが入居者様の現状の把握の仕方が微妙に違うので話し合いながら、統一していきたい。
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	課題となることがあれば、すぐにケアマネに連絡し、介護計画に反映できるように行っている。		課題、ケアの仕方の問題があれば、すぐにケアカンファレンスをして、話し合っていきたい。
37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	モニタリングを行い、見直しを行っている。		スタッフ、家族と話し合い、新たな計画を作成している。

アイケア服部(3Fげんき組)

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
38	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	入居者の気づいた事などは記録へ記入したり、申し送りなどでスタッフ間に伝わるようにしている。		今後もスタッフ同士、入居者の細かな情報を共有できるように努めていきたい。
3. 多機能性を活かした柔軟な支援				
39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	個人対応には気をつけており、利用者様の要望に応じて出来る限り支援させて頂いています。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
40	○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	歌教室、陶芸教室などにはボランティアさんに協力して頂き支援している。		
41	○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	必要時にリハビリ等を利用し、支援している、		必要に応じ必要なサービスを利用していく。
42	○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	地域包括支援センターと密に連絡を取り協働している。		今後も今まで以上に連絡を取り合っていきたい。
43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	利用者様それぞれのかかりつけ医に行っていただけるように受診については、個別対応をしている。		いつでも、かかりつけ医で受診していただけるように、対応できている。

アイケア服部(3Fげんき組)

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
44	<p>○認知症の専門医等の受診支援</p> <p>専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している</p>		
45	<p>○看護職との協働</p> <p>利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている</p>		
46	<p>○早期退院に向けた医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している</p>		
47	<p>○重度化や終末期に向けた方針の共有</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している</p>		<p>スタッフとも、その都度話し合いを行い共有できるようにしている。最終的には終末期の介護もホームでしたいと思っています。</p>
48	<p>○重度化や終末期に向けたチームでの支援</p> <p>重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている</p>		<p>今後は終末期の介護もしていけるような体制を作っていくと思っています。</p>
49	<p>○住み替え時の協働によるダメージの防止</p> <p>本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている</p>		

アイケア服部(3Fげんき組)

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援			
1. その人らしい暮らしの支援			
(1)一人ひとりの尊重			
50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	記録には個人の名前がわからないように、イニシャルを使い、プライバシーを損ねるような言葉かけや対応をしないようにしている。	一人ひとりの意思を尊重し、プライバシーを損ねるような言葉、対応を行わないようにしている。
51	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	利用者様の思い、物事の決定が自身で	ご本人が自己決定できるように声かけをやっていききたい。
52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	ひとりひとりのペースで過ごされていると思うが日によっては希望に沿った支援ができていない。	スタッフの都合に合わせるのではなく入居者を優先し、その人らしく過ごせるように支援していききたい。
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
53	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	本人が望む理容、美容のお店には行けていないが身だしなみ、おしゃれができるように家族様が口紅などを持ってきてもらったりしている	本人が昔行っていたなじみのあるお店に行けるように支援していききたい。
54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	一緒に食事の準備をしたり、おやつ後の片づけ等時折行っている。月に一回おやつ作りを行っている	食事中には楽しく食事出来るようにスタッフも一緒に食事をし、会話をし、楽しい時間になるように支援している
55	○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのもを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	コーヒーとおやつは毎日出し、楽しめるように支援している。入居者の家族様よりジュースやおかしを持って来て下さり、提供させて頂いている	個々に合わせて好きな物を楽しめるように支援していききたい

アイケア服部(3Fげんき組)

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
56	○気持よい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	トイレ誘導しなくてはいけない方は声かけをトイレにて排泄していただく。自分で行ける方はご自分の行きたい時に行っている		失敗を少なくするために排泄パターンを知り、習慣をいかし排泄して頂いている
57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	スタッフが入る人、時間等を決めていて入居者の入りたい時間に合わせることができていない。		ご本人が入りたい時間に入れているようにしていきたい
58	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	ご本人が眠たい時に休んでもらえるように配慮している		一人ひとりの習慣に合わせて安眠、休息していただいています。
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	ご本人が行きたい事、楽しみごとが出来るように一緒にみつけだすように努めている。カラオケ、散歩、塗り絵、トランプ、百人一首などを行っている		カラオケ、カードゲームなどを行い楽しみ事を見つけて頂いたり、台所の手伝いを行って頂けるように支援している
60	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金の管理ができる方には、少額の現金をお渡しし管理してもらっている		ご本人の希望などがあれば買い物に付き添って支援している。
61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	ご本人の希望により散歩、買い物に行けるようにしている		ご本人が行きたい時間に散歩などが行けるようにしていきたい。
62	○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	企画を立て、他入居者、家族と一緒に外出を行っている		季節ごとに外出の企画を立て、普段行けない所にどンドン行き、外出する機会を増やす事で家族の方にも来ていただき、一緒に過ごす時間を増やしていきたい。

アイケア服部(3Fげんき組)

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
63	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	手紙を書かれた時に一緒に出しに行ったり、スタッフ側で手紙を出すように行っている。		家族の方に年賀状、クリスマスカードなど書き、手紙のやり取りを続けられるように支援していきたい
64	○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	面会は自由に行って頂き、外出、外泊も行えるようにしている。個室のため気軽に訪問でき、ゆっくり過ごして頂ける		気軽に訪問できるように工夫し、居心地のよい場にし、家族や友人の方がどんどん来れる環境にしていきたい
(4)安心と安全を支える支援				
65	○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束を行わないケアを行っている。(センサー使用したり声かけを行っている)		これからも身体拘束ゼロで行なっていきたい。ご本人の行動を妨げないような声かけを行っている
66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	居室はカギをかけないように入居者、スタッフにも説明し、実践している。玄関はホームの前が道路で危険なのでカギをかけているが、散歩などして外に出る機会を作っている。		玄関はホームの前が道路のためカギをかけているが希望にて散歩に行き対応している。居室はカギをかけないように実践していきたい。
67	○利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	必ずフロアにはスタッフが居るようにして、入居者の様子が目の届く場所にいる。夜間は1時間毎に巡視し、必要な方にはセンサーを使用している		必ずフロアにはスタッフが居るようにしているので入居者の様子が把握できるようにしている
68	○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	はさみ、刃物など危険なものは職員が預かり必要な時には見守りにてご本人に使用して頂いている		個々の対応をして、希望に応じて対応していきたい
69	○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	利用者さまの移動時、食事時の見守り服薬時の確認は、事故につながるもので、職員一人ひとりが気をつけ、何かあれば必ず、ヒヤリハットで確認し。ミーティング時にも伝達していません。		すぐに対応できるようにスタッフ一人一人が知識を学び対応できるようにしていきたい。火災訓練を定期的に行う。

アイケア服部(3Fげんき組)

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
70	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	一部の職員しか救急救命の講習を受講していない。		今後は全ての職員が救命講習を受けられるようにしていきたい。
71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	消防署より職員の方に来ていただき、階下の池田クリニックさんと合同で防火訓練や消火活動訓練をしています。		今後は地域の人たちにも働きかけていきたいと思っております。
72	○リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にされた対応策を話し合っている	転倒等のリスクについては、常々家族にお話をさせていただいており、予測される方のベッドの下にセンサーを置かせてもらい、室内移動時、SSに感知できるようにしている。		
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
73	○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	体調の変化を見逃さないように観察し、変化があればすぐに報告し、病院で受診している。		異変があればすぐに病院に受診している。早期発見を見逃さないようにしている
74	○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	スタッフ全員が薬の目的や副作用などを理解するように心がけている。		薬が処方された際には目的や副作用などが書かれている薬の説明書をみるようにしている。
75	○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	便秘の予防は水分を多く摂取してもらうように声がけ、食事にも繊維質の多い野菜(根菜)を多めにし、おやつには焼き芋等もお出ししています。		便秘解消のマッサージ、運動を取り入れていきたい
76	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	口腔ケアを見守る。毎食後口腔ケアを行っている。		夜に入れ歯を外して自分で洗って頂きもう一度確認してきれいな状態でケースに入れている

アイケア服部(3Fげんき組)

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一人ひとりのポットがあり、いつでも水分が摂れるよう、声かけなどにて摂取してもらう。食事は一日のバランスよく食事ができるように考えている。		カロリー計算を行い、バランスの摂れた食事を行っている。
78	○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	外出後、毎食後には、イソジンでうがいを行ってもらう。手洗いも忘れず行っている。手すりなども消毒し拭くようにしている。		感染症に対する研修などに行き、スタッフで情報を共有し、予防を行っている。
79	○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	机、台拭き、ふきん、おしぼり等はハイターで消毒している。食後に洗った後には熱湯消毒している。		ハイター消毒、熱湯消毒を続けて安全管理に努めていきたい。
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
(1)居心地のよい環境づくり				
80	○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	鉢植えを置いたり、利用者様が作った作品を飾ったり季節感を感じて頂けるように配慮している		これからも親しみや温かさを感じてもらえる様工夫していきたい。
81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	かべには季節を感じて頂けるように配慮している。		季節感を感じて頂けるように工夫し、居心地のよい環境を作っていきたい。
82	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	居室は一人部屋なので一人でゆっくり過ごせる空間はある。フロアで仲の良い入居者同士、自由に椅子に座って頂いている。		共有空間でトランプ、カルタ、カラオケ等を行い楽しく過ごして頂けるように更に工夫していきたい。

アイケア服部(3Fげんき組)

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には、ご本人が今まで使っていた使い慣れたものを持って来ていただき、居心地よく過ごして頂けるよう工夫している。		ご本人の希望を聞き、日々の生活に変化を持ち、居心地よく過ごせる環境を作っていききたい
84	○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のおよみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	換気、温度など調節し、体調の変化がないように配慮している		今後も換気、温度に気をつけ入居者が快適に過ごせるようにしていきたい。
(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
85	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	出来るだけ自立した生活が送れるように手すりなどが必要な所にあり自由に行動して頂けるように工夫している		出来る限り、ご本人の身体機能を活かした生活をして頂けるようにしている。
86	○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	事前に予定を伝えたり、季節感を感じて頂けるようにして、混乱、失敗を防ぐようにしている。		カレンダーに予定を記入し、入居者に分かりやすいようにしていきたい。
87	○建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	3階にはベランダがないため外回りを活用するのはなかなか難しいが季節によっては花火、さくらなどが見れたり、飛行機がみれたりする		入居者が楽しんで頂けるようにスタッフで話し合い、活用できる物を探していきたい。

V. サービスの成果に関する項目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
項 目			
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	○	①ほぼ全ての利用者の
			②利用者の2/3くらいの
			③利用者の1/3くらいの
			④ほとんど掴んでいない
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○	①毎日ある
			②数日に1回程度ある
			③たまにある
			④ほとんどない
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
94	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	○	①ほぼ全ての家族と
			②家族の2/3くらいと
			③家族の1/3くらいと
			④ほとんどできていない

アイケア服部(3Fげんき組)

項 目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	<input type="radio"/>	①ほぼ毎日のように
		<input type="radio"/>	②数日に1回程度
		<input type="radio"/>	③たまに
		<input type="radio"/>	④ほとんどない
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	<input type="radio"/>	①大いに増えている
		<input type="radio"/>	②少しずつ増えている
		<input type="radio"/>	③あまり増えていない
		<input type="radio"/>	④全くいない
98	職員は、生き活きと働けている	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての職員が
		<input type="radio"/>	②職員の2/3くらいが
		<input type="radio"/>	③職員の1/3くらいが
		<input type="radio"/>	④ほとんどいない
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が
		<input type="radio"/>	②利用者の2/3くらいが
		<input type="radio"/>	③利用者の1/3くらいが
		<input type="radio"/>	④ほとんどいない
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての家族等が
		<input type="radio"/>	②家族等の2/3くらいが
		<input type="radio"/>	③家族等の1/3くらいが
		<input type="radio"/>	④ほとんどできていない

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

職員が、利用者様一人ひとりに合わせた個別対応ができるように頑張っています。